

令和2年度古文書講座

安永6年「酒卷河岸問屋の積船調達代金の助成願書」

【解読文】

乍恐奉以書付願上候

一私義、数年江戸御廻米船積被 仰付、年々積送

急御用等相働問屋家業仕来候処ニ、近年舟所

持無御座難儀仕候、河通馴染合之船持方江渡合、相頼

船積出精仕来候ニ付、何卒當年舟壺艘所持仕度、當

春中々段々心懸川通船才覚仕候処ニ、於上州宜敷キ

積船有之調度候処ニ代金不足ニ付、自力不相叶舟

手ニ入不申、甚難義仕候、依之何卒以御 慈悲を

一組千五百俵江戸御納被下置、此出目助成を以舟

買請、御組積船仕度候、何卒以御 慈悲を右願之

通千五百俵之御納被下置候様ニ奉願上候、被為 仰

付被下置候ハ、御取立偏ニ御救難有奉存候、以上

酒卷川岸問屋

安永六丁酉年八月

十右衛門

【読み下し文】

恐れ乍ら書付を以て願ひ上げ奉り候

一私義、数年江戸御廻米船積仰せ付けられ、年々積送  
急御用等相働き問屋家業仕り来り候処に、近年舟所  
持御座なく難儀仕り候、河通馴染合の船持方へ渡合ひ、相頼  
船積出精仕り来り候に付、何卒當年舟壱艘所持仕りたく、當  
春中より段々心懸け川通船才覚仕り候処に上州に於いて宜しき  
積船これ有り調えたく候処に代金不足に付、自力相叶わず舟  
手に入申さず、甚だ難義仕り候、これに依り何卒御慈悲を以て  
一組千五百俵江戸御納め下し置かれ、この出目助成を以て舟  
買い請け、御組積船仕りたく候、何卒御慈悲を以て右願ひの  
通り千五百俵の御納下し置かれ候様に願ひ上げ奉り候、仰せ  
付け為せされ下し置かれ候はば、御取り立て偏に御救有り難く  
存じ奉り候、以上

酒卷川岸問屋

安永六丁酉年八月

十右衛門